

地域レベルの活動を下支えしつつ、多様な主体の連携により、市民創発によって多様化する地域課題に対応する基盤「ソーシャルデザインセンター」の創出・運営支援に向けて、各区で次の通り取り組んでいる。

【麻生区】

- 令和元年度に「あさお希望のシナリオプロジェクト」を立ち上げ、75名の区民が参加。「みんながつながる みんなが輝く I♥ASAO」をキャッチフレーズに始動。
- 令和4年4月に「あさお希望のシナリオ実行委員会」を設立し、SDCモデル実施に向け、SDCの機能を具体化した5つのプロジェクト(コーディネート事例のヒアリング、SDC-Carプロジェクト、WEB&SNS、ハロープロジェクト、まちのひろば祭りI♥あさお)の試行を開始。
- 5つのプロジェクトの実施・検証結果をもとに、SDCモデル案を検討し、令和5年度にSDCモデルを実施していく。



【あさお希望のシナリオ実行委員会】

【多摩区】《令和2年3月に開設》

- 令和2年3月に、区民主体の運営による「多摩区ソーシャルデザインセンター」が多摩区総合庁舎1階に開設し、地域活動に関する相談受付・支援等を実施。(一社多摩区ソーシャルデザインセンターによる運営)
- 地域の支援・活性化を目的とした「登戸・たまがわマルシェ」の開催や「民家園通り商店会夏まつり」など各種イベントの開催支援、「まちのひろば」創出等に向けた子ども食堂の実施及び開設支援、日本民家園での古民家カフェの運営、区との取組と連携した区内障害者団体等の作品の展示・販売支援、高齢者を対象としたスマホ・Zoom利用講座の開催協力、区制50周年記念公募事業に係る地域団体への支援等を実施。
- また、地域との一層の関係構築・連携に向けた町内会・自治会等の訪問・ヒアリングの準備を推進。
- 令和5年度以降のより良い取組のあり方を検討するため、多摩区役所として、これまでの取組に対する評価・検証を実施。



【多摩区 SDC】

【中原区】《令和4年10月に開始予定》

- 令和3年7月に区民説明会を行い、その後月1回程度SDC創出に向けた検討会等を開催。
- 令和4年6月からは、10月開始に向けた準備会として、SDCの運営体制の検討及びこれまでの検討の中で生まれた企画の発表やプレ実施を行った。
- 知る、集う、つながる等の機能を実践する中原区SDCの取組を以下の内容で開始することとし、第1回YORIAI(定例会)(令和4年10月19日予定)の開催に向け準備を進めている。
(1)YORIAI(定例会)…定例の交流・共有・提案の場
偶数月第3水曜日18時半～20時半、奇数月第2土曜日10時～正午で開催。場所は中原区役所会議室他。
(2)機能実践の取組
・課題チャレンジ…市民活動を行う上での課題に取り組む
・なかはら宝さがし隊…地域の資源や魅力を探し、宝の地図を作る
・交流会…自身の活動やこれからやりたい活動を伝えあい、つながる
・その他…仲間づくり、中原区のメディアと連携した情報発信など



【交流会の様子】

【幸区】《令和3年1月に開設》

- 運営団体を公募し、令和2年6月に株式会社イータウンと協定を締結。令和3年1月に新川崎タウンカフェ内に、さいわいソーシャルデザインセンター「まちのおと」が開設。
- 令和4年度の取組として、地域の活動団体同士で意見交換を行う応援フォーラム、市民参画でSDC事業について話し合う意見交換会、地域の団体活動の運営支援を行う支援協働事業、担い手発掘や地域のつながりづくりを目的とした地域交流会などを実施予定。
- 今後も地域への浸透をより一層図るとともに、徐々に活動範囲を広げながら、多様な主体の連携による取組や地域活動の運営等を支援していく。



【応援フォーラム】

【宮前区】

- 令和3年度に、宮前区内で主体的に活動する既存の活動や人をつなぎ、さらに豊かにしていく「しくみ」や「しかけ」が宮前区らしいしくみであるという仮説に基づき、多様な主体が協働・連携するプラットフォームとなる場として、「ラウンドテーブル」を試行実施した。その後、その結果等を踏まえ、宮前区SDC像(案)を作成した。
- 令和4年度は、SDCのしくみや運営を検討し、立ち上げるワーキンググループメンバーを募集した。7月24日のミーティング1を皮切りに、個別ミーティングを重ね、宮前区SDCの立ち上げを目指していく。



【立ち上げWGの様子】

【高津区】

【まちカフェたかつ】

- SDCの機能が生じるきっかけの創出等を目的に、「まちづくりカフェたかつ」をこれまでに対面・オンラインにより、計10回開催。参加者と地域のキーパーソン等をつなげるなど、新たな地域活動の創出や「まちのひろば」の立ち上げへの支援を行うとともに、参加者による交流と情報交換の促進のために立ち上げたFacebookグループを活用し、情報提供・交換の「場」として運用した。
- また、多様な主体による共創プラットフォーム(区のSDCモデル)の試行として、令和3年度は脱炭素やダンスをテーマとした「デザインラボ」を2回開催し、多様な主体による意見交換を実施。
- 加えてデザインラボのスキームを活用し、多様な主体の連携により脱炭素アクションに関するプロジェクト創出を目指す「脱炭素アクション創出部会」を立ち上げ、具体的な取組を推進。



【川崎区】

【コトキュンパークの様子】

- 令和2年度から川崎区SDCモデル創出に向けた実証プロジェクトを実施。令和3年度は、2つの運営団体が連携して実証プロジェクトを展開。また、川崎区SDCモデル創出に向けた座談会や庁内検討等の結果を踏まえて、川崎区SDCモデル事業の方向性を決定。令和4年度の実施事業者の公募を実施した結果、3団体が運営団体として選定(令和4年度途中で追加募集を行い、さらに1団体が選定)された。
- 令和4年度から川崎区SDCモデル事業として、公募で選定された団体と区役所とのネットワーク(コンソーシアム方式)により、各団体の得意分野を活かした事業を実施。地域活動を始めてみたい!参加してみたい!などの「まちを良くするための相談」への対応や、新たな地域活動への参加・交流のきっかけをつくることで、地域課題の解決や新たな価値を生み出す仕組みづくりを行っている。
- 今後は、モデル事業を通じた機能や効果の実証・検証を行い、検証結果を踏まえた本格実施を目指す。(現在の運営団体: NPO 法人姿勢教育の孝心会、一般社団法人グローバル文化協働支援センター、社会福祉法人青丘社ファンズスポーツクラブ川崎・総合川崎臨港病院共同事業体)

